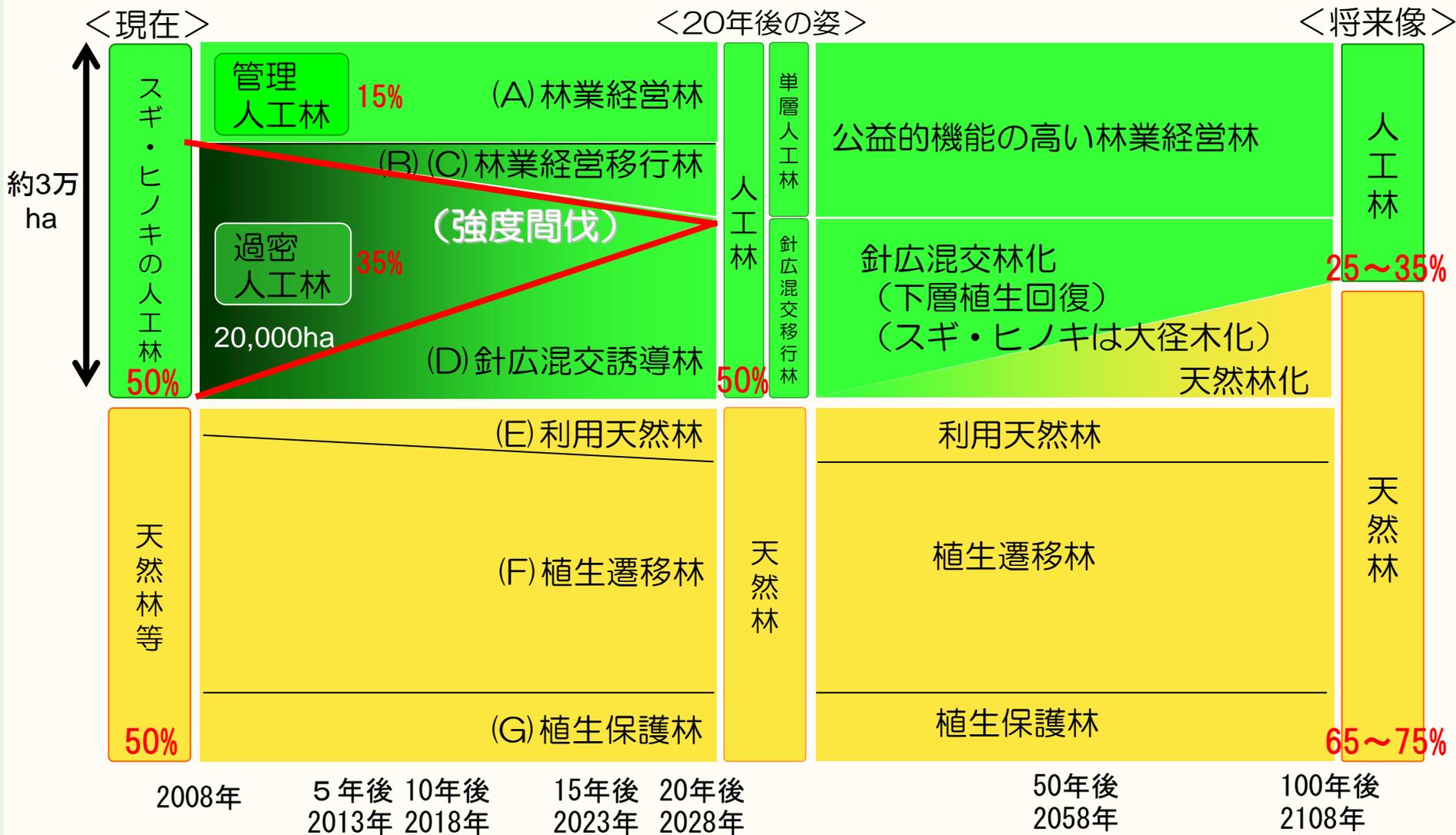


豊田市の森づくりの課題

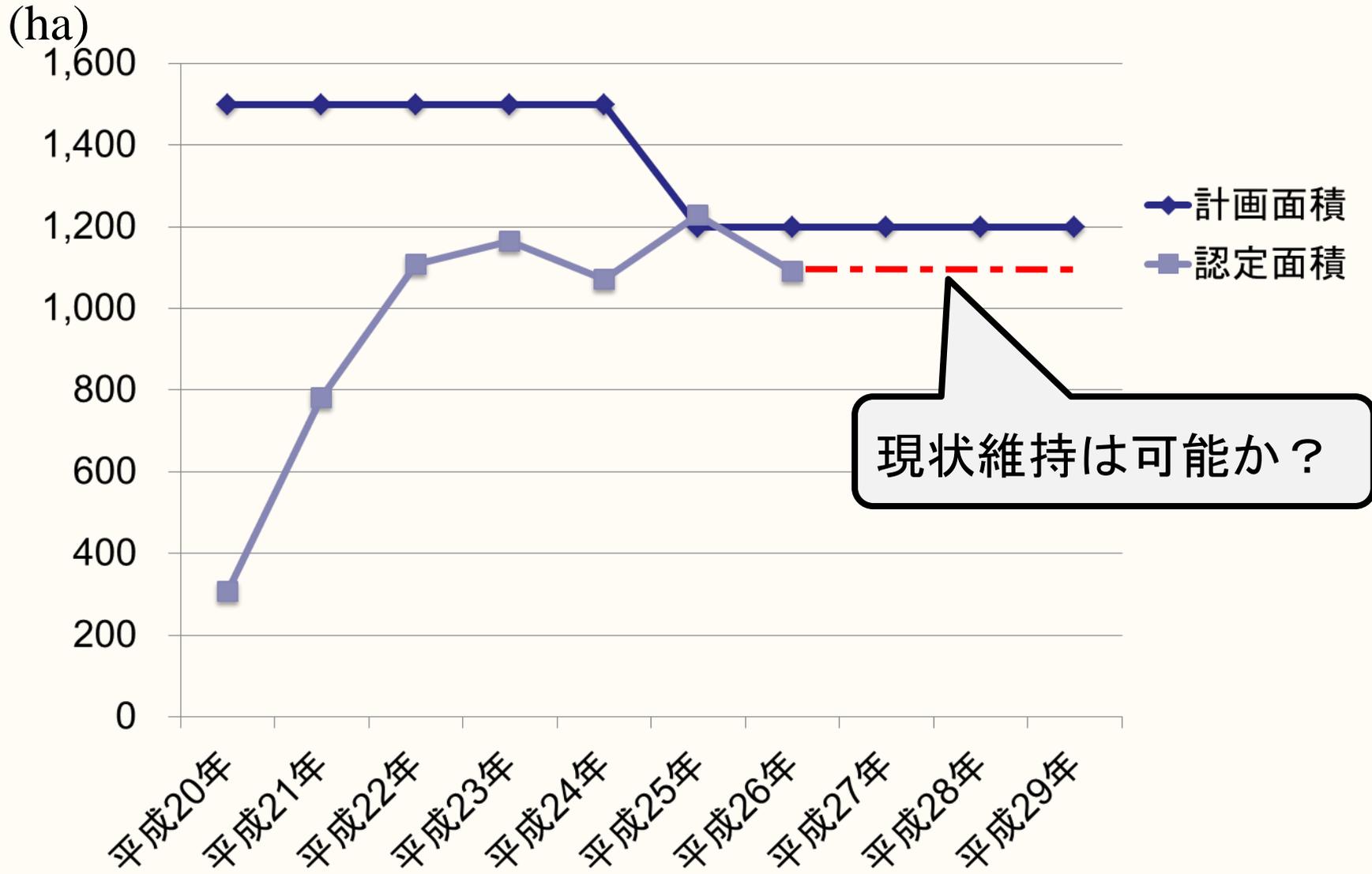
(森づくり構想リニューアル
・プロジェクト)

豊田市産業部森林課

森林の整備目標(森づくり構想)



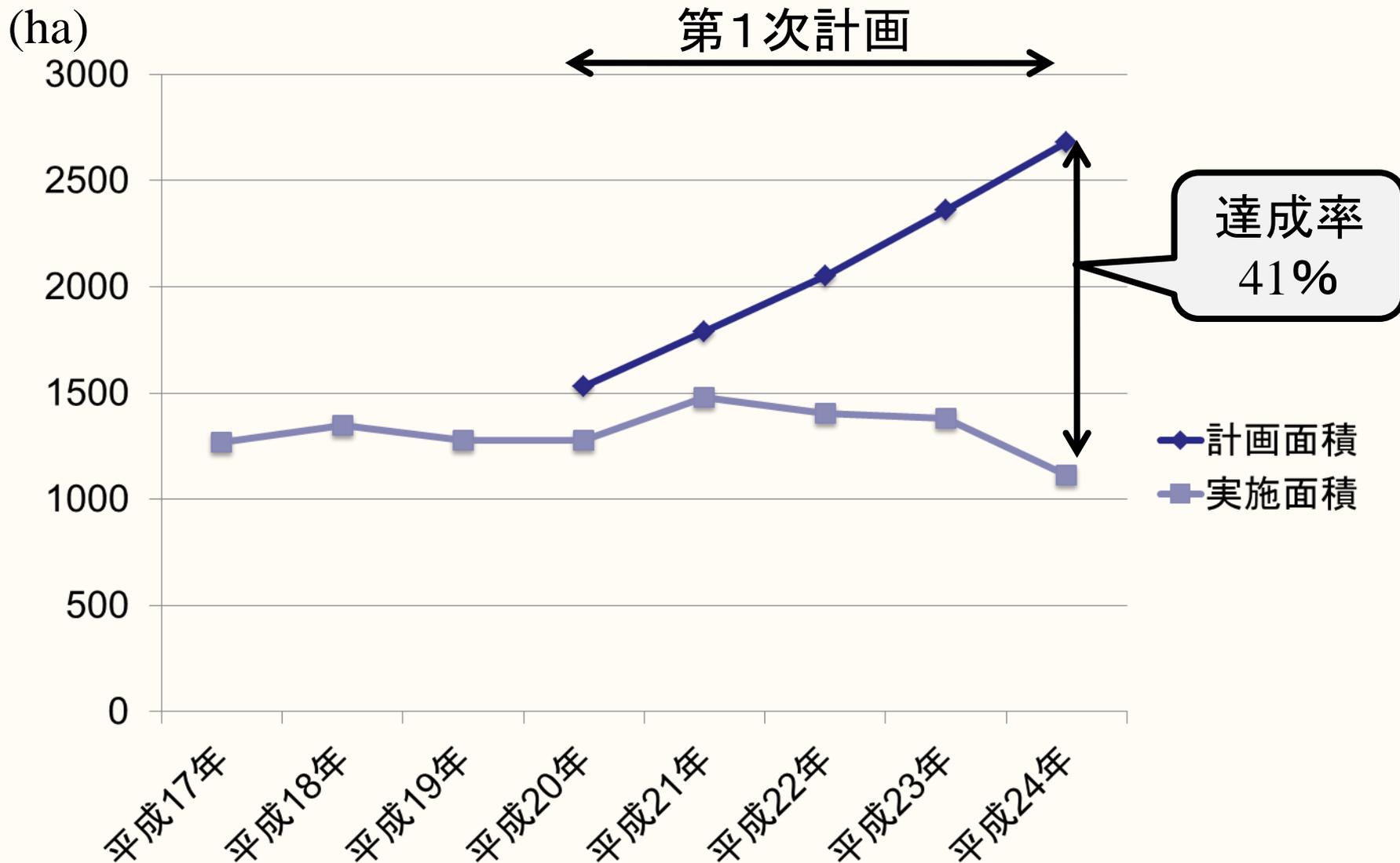
団地計画と実績



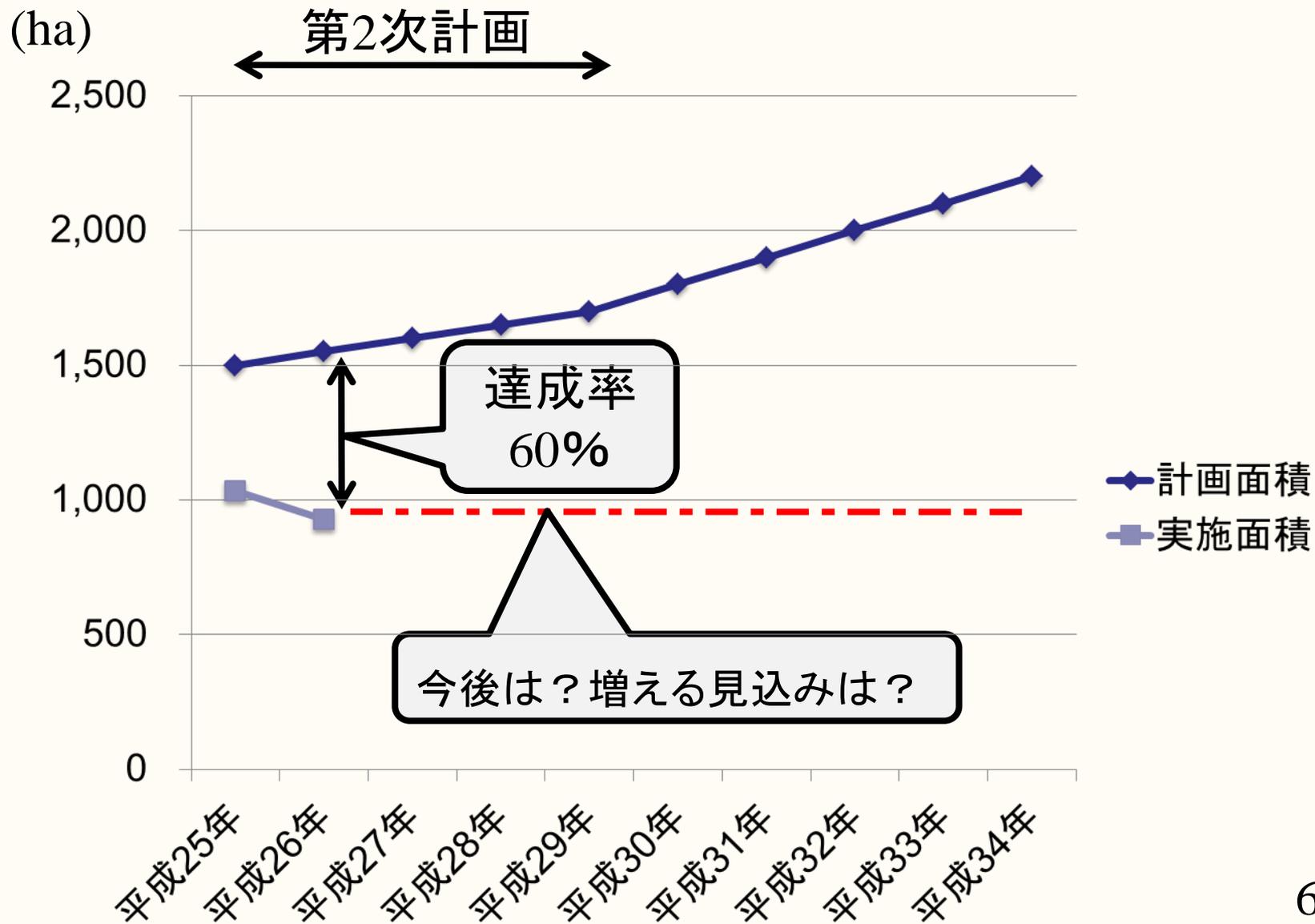
会議—団地方式の今後

- ・豊田市は89%が私有林で、森林所有者の高齢化、山離れ、不在村などの課題。解決策として団地化推進プロジェクト（会議—団地方式）の施策を作った。
- ・地域森づくり会議は、平成26年度までに90会議が設立され、団地化が進んでいる。旭・下山地区では団地化が完了した会議も出てきた。
- ・会議には、リーダーを中心に主体的に取り組む会議もあれば、組合・市が全面的にサポートしなければ動かない会議もある。
- ・団地完了した会議は、次の間伐計画の際にどのような役割を果たすのか？

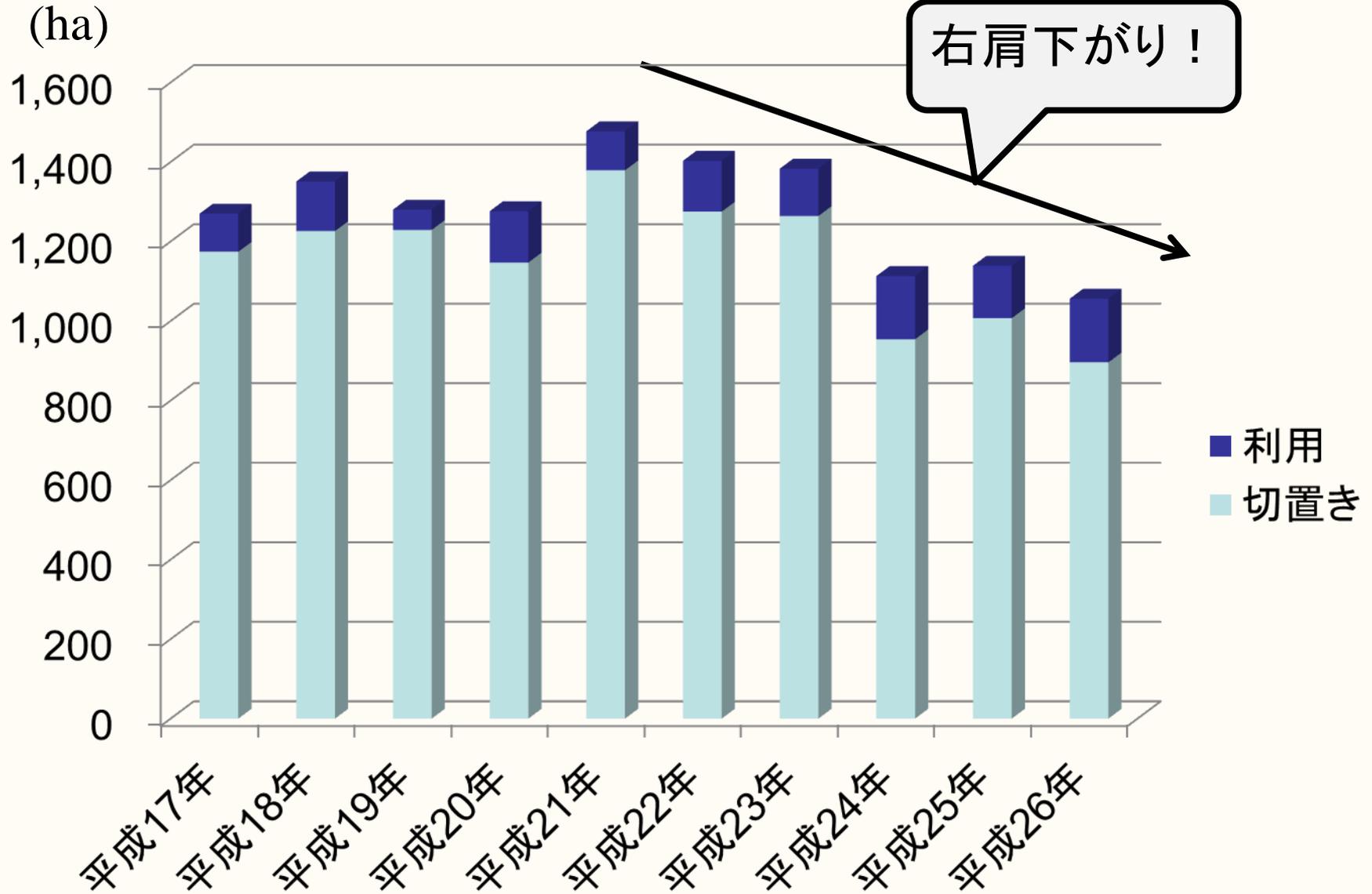
間伐計画と実績の乖離(第1次基本計画)



間伐計画と実績の乖離(第2次基本計画)



間伐実績の内訳(切置きと利用)



間伐実績アップに向けた方策

- ・間伐(切置き間伐、利用間伐)実績アップに向けた取り組みが急務。
- ・林業労働力の向上に向けてどんな施策が取れるか。長期的な視点で育成をどう図っていくか。
- ・製材工場の誘致に向けて、素材生産量を着実に上げていく仕組みづくり。
- ・今後の厳しい市財政の中で市のできることも限られる。各団体との役割分担、選択と集中を進めコストを抑えていく必要。
- ・今後、利用が進む中で皆伐上限面積等の設定など、保全と利用を両立させるためのガイドラインなど。

航空写真分析

【事業概要】

- ・市の持つ航空写真を用いて、森林の状態を分析。
- ・10m×10mメッシュで豊田市約6万haの森を解析。
- ・事業期間：平成27年～28年度

【期待される成果】

豊田市域の森林の状態の把握！

- ・林種別面積・・・人工林(ヒノキ、スギ、マツ)
天然林(常緑樹・落葉樹)、竹
- ・人工林の立木本数、200本/ha刻み → 過密・適正の判定
- ・傾斜区分(緩傾斜地、急傾斜地等)
→ 災害危険度、木材生産適地の判定
- ・標高区分 → 針広混交林化推進へ

構想の森林区分と針広混交林化

森林区分番号		(A)
現況		
区分名称		林業経営林
立地条件等の特性	大区分	道路からの距離、地形・地質、現存植生を考慮し、林業経営を目的として森林管理をする
	小区分	現存植生は人工林で、現在または将来的に採算が見込め、かつ所有者に経済林として積極的に経営する意志があることから、林業経営することが望ましい場所
所有者の現在の意志		経営意志有
林業的な適・不適		適地 現状不適地 (将来適地)
管理基本方針		補助を活用した自己管理
施業方針		<input type="checkbox"/> 通常間伐 <input type="checkbox"/> 路網等基盤整備 <input type="checkbox"/> 単層人工林 <input type="checkbox"/> 伐採後は再造林

(B)(C)
林業経営
移行林

.....

(D)
針広混交誘導林
道路からの距離、地形・地質等を重視した森林管理が望ましい
現存植生は人工林で、将来的にも採算が見込めないこと又は環境保全上の観点から、強度間伐等により自然回復した樹種を加えた針広混交林化への誘導が望ましい場所
—
不適地
高率補助又は公的管理等
<input type="checkbox"/> 強度切置き間伐又は巻枯らし間伐 <input type="checkbox"/> スギ・ヒノキの大径木を残した針広混交林化

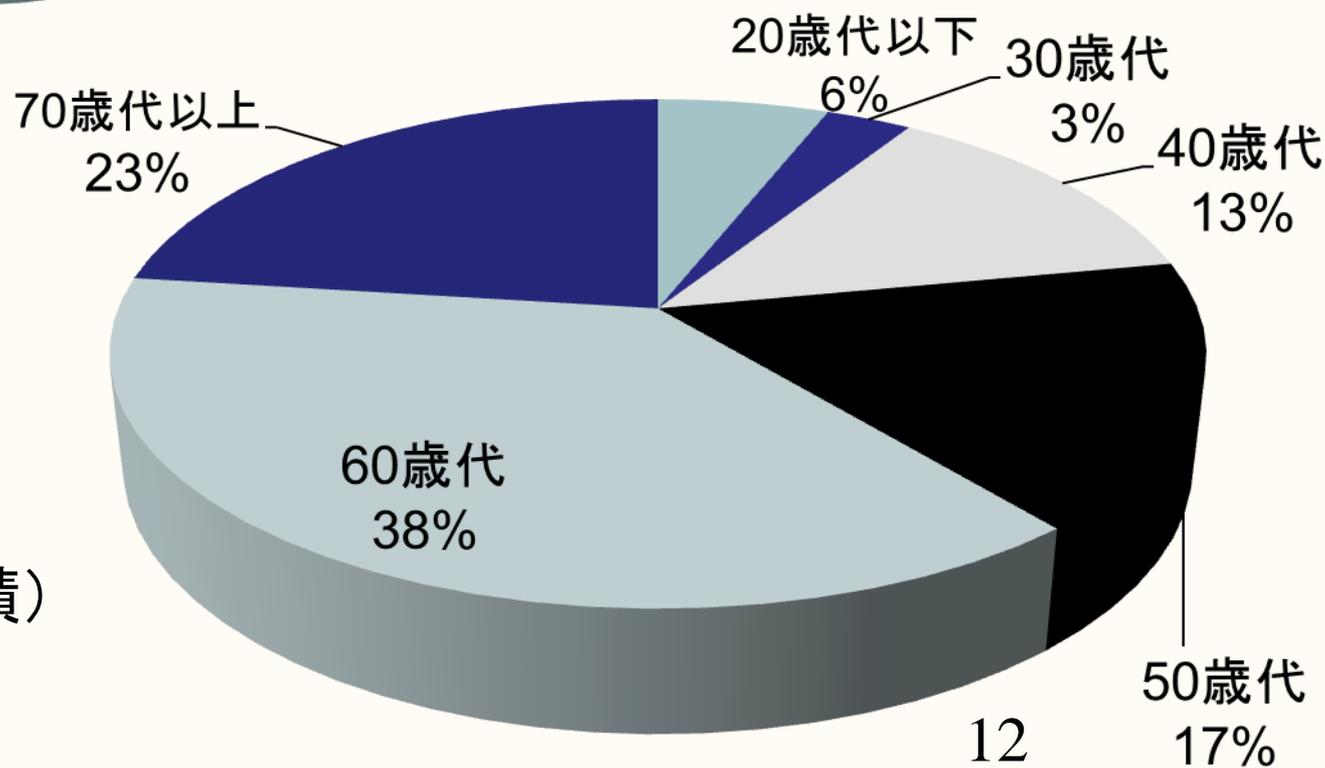
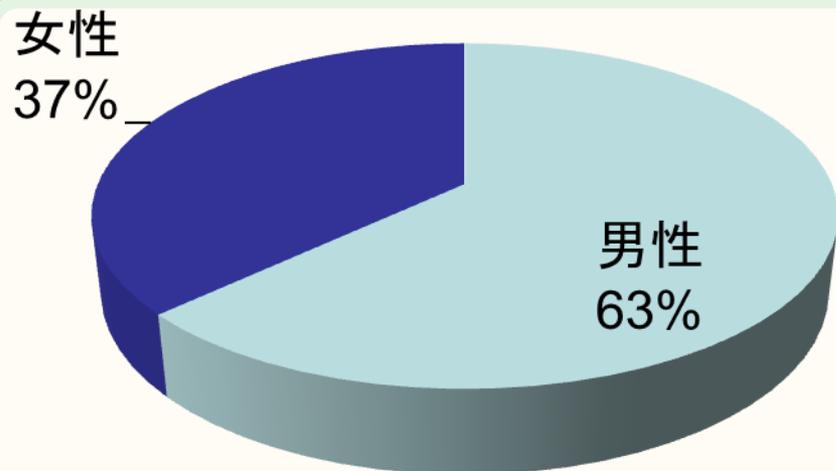
(E)(F)(G)
天然林

.....

針広混交林化(D)の展開

- ・公益的機能の発揮を中心に据えた森づくり構想にとって、100年後には人工林を現在の50～70%にする針広混交林化は大きな柱だが、この8年間の実績がほとんどない。
- ・当初「高率補助」というスキームを作り動かそうとしたが、平成20年に県の森林環境税が登場し、高率補助が可能になったことも影響。
- ・森林所有者の同意が必要。針広混交林化のメリットをどう担保するかという課題。豊田森林組合との意識共有も必要。
- ・RP①の航空写真分析において傾斜区分(急傾斜地)等を進め、所有者と話し合う資料として針広混交林化適地(保全区域)をゾーニングをする手法。

とよた森林学校受講者構成(男女比、年齢比)



(平成26年度実績)

普及事業の展開

- ・とよた森林学校は、300人前後（/年、実人数）の受講者を確保し、平均3日間という充実した内容で講座を実施し、実績を上げている。これとは別に小学校を中心に40～50回程度/年の出前講座も開催。
- ・豊田市民の参加、新規参加者、女性や現役世代（20～50代）、森林所有者の参加を促す方策など。また今後、持続的に森林学校を続けていくための仕組み作りも必要。
- ・市の普及事業全体としては、より多くの人に対して浅く広く働きかける普及法の検討も必要。企業の環境活動や森林ボランティア団体との連携なども。

市財政の見通し

- ・景気動向に大きく左右される財政構造(変動リスク)

リーマン・ショックの衝撃 法人市民税 H20 → H21 ▲425億円!

- ・国の制度変更により大幅な歳入減
 - ・法人市民税の一部国税化(H26、税率 12.3%→9.7%)
 - ・引き続き法人市民税の一部国税化が検討。

- ・地方交付税の合併特例の終了(平成33年度まで)

▲100億円!

- ・超高齢化社会の到来、公共施設等の老朽化に伴う更新経費の増加



限られた財源を有効に活用していく仕組みづくりが必要!